



日本共産党市会議員

2015年12月16日

庄本けんじ

携帯 090-6665-9401

議員控え室 0798-35-3368

活動ニュース

住民の声を聞いて施策の推進を



質問に立つ庄本けんじ（12月7日）

西宮市議会の12月議会は、12月15日で終わりました。この議会で、日本共産党西宮市会議員団は、まつお正秀、佐藤みち子、庄本けんじの3名の議員が一般質問をおこないました。

庄本けんじは、三つの問題で質問をしました。

- ①西宮浜に通じる跳ね橋の開閉方針について。
- ②旧夙川短大の校舎解体に伴うアスベスト対策。
- ③11階建て構想の第2庁舎整備計画について。

意味のない跳ね橋の開閉はもうやめて！

跳ね橋の開閉問題では、船の通行がないのに開閉作業をしている、まったく意味のない開閉はやめてほしい、との強い声があります。

そこに、10月11日、開閉故障が起き、17時間ものあいだ橋が通行止めとなりました。多くの人が遠く離れた西宮大橋まで迂回させられることになりました。この際、開閉中止を求める住民の声を聞いて、跳ね橋開閉の市の方針をあらためよう求めました。



住民が安心できるアスベスト対策を

アスベスト（石綿）対策の問題では、これから建物解体が増え、解体による石綿の飛散が大きな問題となります。石綿の含有建材が使用されているかどうか、市の調査体制では、石綿の有無を100%調査することができません。アスベストは、吸い込むと深刻な健康被害を起こします。調査目標を100%にあらため、体制の抜本的強化を強く求めました。

第2庁舎建設は十分な議論を

第二庁舎整備の問題では、住民や議会の意見、声をしっかり聞いてすすめるという行政のあり方が問われる大きな問題です。この整備計画は、当初、老朽化した教育委員会庁舎を建て替えるにあたって、そこに防災センターもあわせ整備するとしていたものです。それを、大きく見直し、11階建ての庁舎を建て、そこに防災危機管理センター、消防、都市局、土木局、上下水道局などが入るといいます。この計画がしめされたのは、9月議会がはじめてで、議会では、賛否を表明するような議論はされていません。そういう段階のものを、この12月議会で補正予算をつけ、次々と前へ進めようとするやり方は、許されるものではありません。基本計画策定に進む前に、考え方や進め方などを十分議論、検討した上で、進むべきものです。あまりにも拙速なやり方を厳しく批判しました。

借り上げ住宅訴訟



“ちょっと待った”

==穏やかに、静かに暮らしたいだけ== 入居者の要望反映

市は話し合いで解決を

12月11日 金 開かれ

た西宮市議会建設常任委員会で、阪神・淡路大震災の被災者が入居する借り上げ復興住宅の明け渡しを求め、提訴議案が全会一致で継続審議となりました。入居の継続を切実に求める入居者の願いを反映したもので、強引に退去を進める市に対し、裁判に訴える前に、話し合いによる解決を、と求めました。



西宮市はURとの20年の契約期間満了を理由に、借り上げ住宅からの全員退去を迫っています。9月30日に20年をむかえたUR借り上げ市営住宅「シティハイツ西宮北口」の住民に対する住宅の明け渡しと損害賠償を求める「訴え提起」の議案を提出していました。

日本共産党の上田さち子、庄本けんじ両市議は、西宮市が契約期間満了時に退去するなどの事前通知をしていないことや、入居者は何も悪いことをしていないと答弁したことを指摘し、国の補助金活用を検討して、和解するよう求めました。司法に判断を委ねるのでなく、裁判の手続きを当面回避して、入居者と話し合い円満に解決すべきだと主張しました。



【日本共産党の上田さち子、庄本けんじ両市議】

